

知事選勝利、参院選勝利へ熱気、150人が集う

2月2日 松戸市日本共産党後援会総会 & 決起集会

第一部は松戸市日本共産党後援会の総会。活動報告と方針、そして新役員の提案が承認されました。

第二部は勇壮な和太鼓演奏で始まり、総選挙を候補者としてたたかった6区のみわ由美さん、7区のわたなべ隆夫さんのあいさつのもと、三輪定宣県知事候補が、県議会を傍聴した時に小松県議が質問中に「傍聴席に三輪さんが来ている」と紹介して大注目されたエピソードも紹介し、自ら行ったアンケートに寄せられたいじめの実態に触れて「いじめをなくすためにも30人学級を是非実現したい。お金がなくて学べないということをなくすために金中・高等教育の無償化を。」と決意と政策を語りました。



寺尾さとし参院選挙区候補は、「夜中の2時に呼び出されて朝6時に現場に行ったら仕事はキャンセル、交通費も出ないので遠くから歩いてきた、また歩いて帰る」という、日雇派遣のひどい実態を告発し、若い人が安心して学び働ける社会をつくるために、県知事選挙も参院選も全力でたたかう決意を述べました。

他会場から駆けつけた小池晃党政策委員長・参院比例候補は、まず冒頭、松戸・鎌ヶ谷地区委員会が読者拡大で連続前進し、日刊紙で前回参院選比を上回っていることに敬意を表しました。

「安倍内閣は危機突破内閣ではなく危機突入内閣だ」と語り始めた小池さんは、原発事故もデフレ不況もみんな自民がつくってきた危機だが、反省がないから解決策示せないと批判しました。



小池さんは、「まず被災地の復興」と、住宅再建支援は全壊でも助成が300万しかでない、せめて500万以上にしたいと述べました。次に「アベノミクス」について、三本の矢(金融緩和、大型公共事業、規制緩和)はすべての外れ。仕事と雇用なしに、お札刷っても銀行にたまるだけ。ゼネコンばかり儲かる大型公共事業ではなく、公共事業も中小企業に回る仕事を。経済危機の原因は、働く人と中小業者の所得が減っているのが問題なのに、さらなる賃下げを財界は要求している。東大の大瀧雅之東京大学教授との経済討論会があつて、「ケインズ対共産党」。しかし対決どころか、雇用と産業の立て直しなど、ことごとく一致したことを紹介。

さらに生活保護費の削減について触れ、「国民同志を対立させるひどいやりかた。社会保障の財源は弱い者いじめの消費税でなく、力のある富裕層と大企業に頑張ってもらおうじゃありませんか。」と呼びかけました。そして「共産党は大企業をつぶそうと思っているわけではない。もうけた分労働者と下請けにきちんと払えということ。大企業のまともな発展を一番考えているのが共産党。内部留保を社会に還流をというマスコミ論調もでてきた。」とユーモアも交えて訴えました。

原発については、「危険でコストも高い原発は全部廃炉へ、筋金入りの脱原発政を伸ばしてください。放射能の高いこの地域から原発ゼロの声を。」と訴えました。

最後に9条とアメリカ言いなり政治について触れ、「TPPは総選挙のときは反対と言つてが、アメリカに一回もノーと言つてないのが自民党だ。危険なオスプレイも米軍基地の移転もアメリカの責任で。河野談話の見直しはアメリカからも批判の声あがり、世界から相手にされなくなる。9条は国際公約、守りぬく。今度の選挙は9条が問われる。」と訴えました。

閉塞感の中での右傾化、危険な維新の会について、既得権益を打ち破るといいながら、最大の既得権益である財界とたたかえない。橋下市長の特徴は公務員批判と独裁で、議会の役割否定するもの。日本最大の既得権益＝日本経団連、世界最大の既得権益＝アメリカと堂々とたたかえる日本共産党を伸ばそう！地域でも放射能測定、エレベータ設置で頑張る党、政党助成金を受け取らない日本共産党を大きくと訴え、大きな拍手に包まれ、入党と購読も訴えました。

決起集会は党地区委員長の行動提起のあと、後援会役員のガンバロウ三唱で奮闘を誓いあいました。

